

静中・静高 関東同窓会 会 報

静中・静高関東同窓会
会報 第16号
昭和58年12月7日発行
編集人 月見里得知郎



第9回

同窓会総会

三百七十名集う

58年6月24日

関東同窓会第九回総会は58年6月24日、例年通り築地スエヒロの大宴会場で開かれた。校歌応援歌のメロディの流れるなか、開会の六時前から続々と岳南健児が受付へ、そこで24ページの会報15号と二千五百名を収録した64ページの新しい名簿を受け取る。静岡の土産品コーナーの売れ足も早く世話人はてんでこ舞いである。

定刻、校歌斉唱のあと宮沢会長の挨拶、68期の画家杉山有君が紹介される。来賓として杉山茂樹同窓会事務局長が挨拶。また70期の河合大悟静岡新市長が登壇、感謝と決意の表明がなされた。静中・静高卒では20年ぶりの市長とのこと

—公僕として存分の活躍を期待する、盛大な拍手！

議事に入り、奥野副会長より57年度事業報告・会計報告・監査報告、および88年度事業計画案・予算案が提案され、可決された。年会費納入について同期生に呼びかけることを出席者に要請した後、懇親会に移る。

38期石割正氏の若々しい音頭で乾杯！今春卒業の99期の新会員紹介や、72期木原正二郎君の熱演等々が続く。スエヒロ料理静岡名産を賞味しながら、皆、静中学生・静高生となった感——大学生も百三十名という記録的なパーティーとなり、立錫の余地もない会場で話がはずんで、賑やかなこと、賑やかなこと。

庄巻は42期井出多米夫氏と47期杉山栄一氏の元気あふれる応援歌の指揮ぶりである。老若男女の大合唱は正に郷土に届かんばかりであった。（上の写真をとくとごらんいただきたい。先輩両氏の熱演に比べて、折にふれ校歌・応援歌を大いに歌いあげましょう。）

さいごに例によって校歌を四番まで歌い、40期野崎操一氏の発声で万歳三唱、後日を約して閉会したのは八時十分すぎであった。

（上杉重吉）

その後の同窓会活動

◎幹事会

・58年7月19日（金）18時30分より
・新宿NSビル8F、トップバンム
・17会議室にて
・出席幹事 33名
・議事

①58年度総会の報告と御礼

前年より90名増の参会者で盛会裡に無事終了したこと、各期幹事のご苦労に感謝する。

70期・80期台の出席率の芳しくないのは、異動の多い年代で、同期生の横の連絡が悪く止むを得ないことだが、改善したい。

②名簿・会報の発送依頼

総会欠席者で、年会費拠生率のよい会員にのみ送付することを今回より実施（収支悪化の向上のため）

③次回幹事会は9月下旬の予定
来年は創立十周年にあたるので記念行事などの案を持ち寄ることが提案された。

◎幹事会

10月19日（水）18時より
・新宿NSビル トッパンムニア
・会議室にて。

・出席幹事 名

・議題 ①会報16号掲載原稿投稿のお願い ②秋のレクリエーションについて 他

各 期 便 り

四三回

去る十月二十日久しぶりに静岡の三笑亭で開かれた四三会の昼食パーティに出席した。

集まる者十二名で、昨年四月二十日に開催してから早くも第十九回日となった。出席者は

磯谷幸一郎、大石貞次、小杉一、近藤伊佐男、堀田利郎、松永清平、見原三郎、八木友治、山本豊、鷺津恭一の諸兄。

東京より今井志郎君と西沢が参加した。

同級、同窓の回顧談から各自の近況報告あり、母校の野球部やラグビー部の話から大正十五年甲子園優勝の記念碑建立の推進まで、話題はつきず久しぶりに晩秋の午後を楽しく過ごすことができた。

次回は十一月二十一日(二十日が日曜日の場合は翌日開催)に開かれるが、第二十回目にあたると、各地の同級生に特に案内状を出して大勢集ることに決まって、再会を約して閉会した。

(西沢純三)

四四回

速断、延断、無断

近ごろモウレッツ社員はめっきりはやらなくなった。入社式に堂々とおふくろが付添ったり、上司に仕事のミスを指摘されると、泣きべそをかい「ママ助けて」と電話する時代である。時たま社内の研修会に話を頼まれても、何を話したらよいのか迷うことが多い。三十年の新聞生活を振り返ってみると、毎日が決断力の勝負だった。ズバリ適中した場合の快感は胸のすく思いだが、早トチリや遅断でにがい思いをした記憶もけっして少くはなかった。

一口に決断といっても、これをタイミングの上から区分してみると、決断には速断、延断、無断の三つがあるようだ。速断でビタリと当ればまことに申し分ないが、速断には応々にして見当外れや早トチリの失敗がつきまとうことが多い。

時間的に多少の余裕が許されるときは、あわてて結論を出さずひ

とまず延断と逃げておいて、情報やデータのそろいのをまて、おもむろに結論を出すという手もある。この場合待てるものかどうかの判断がものをいう。

もうひとつ、何が何でも結論を急がれているようだが、よく考えてみるとAのようでもある。Bのようでもある、いやCのようでもある。それならこの問題は結論なしの無断でいいじゃないかという場合もある。

こんな話をする、新入社員諸君はわかったような顔をしているが、何年キャリアを重ねたら、彼らにこの三つの使い分けができるようになるかなと考えてしまうことが多い。

(白井茂)

四五回

この欄で斉藤鍊一君の急逝を報告せねばならぬのは、まことに残念である。その計は去る10月31日の夕刊紙上に掲載され、我々は知った次第、肺がんとのことであった。斉藤君の消息については約4年前柏木君から「気象庁の予報部長を退職後筑波大学の講師を勤め、柏市在住である」と聞き、その当時電話で話し合ったが元気であった。その2年後あたりに名簿の整理上電話したときには筑波大

四八回

卒業五十年

今年は中学を卒業(昭和八年)

してから、丁度五十年になる。十七・八才の少年も今は間もなく古稀の年を迎えようとしている。その間戦争をはさんで、未曾有の時期に遭遇し、同期生各自幾多の苦難の道を歩んで来た。

この度(十月十五日)六十人近く集って同期会を静岡で開いたが、先ず臨済寺で亡くなった学友の慰霊祭が行われた。既に七十三人が幽明境を異にしている。遺族の方々も二十数人出席された。

読経、焼香の後、遺族の方々が一人ずつ紹介される度に、学友のその頃の姿が浮び、往事を顧みて思い胸に溢れるものがあった。残る者一同、心から故人の冥福を祈るとともに、その家族の方々の幸いを願わずにはいられなかった。

夕方から始まる懇親会までに時間があったので、寺と一緒に近藤希賢君と連れだって、旧高等学校跡、旧中学校の横を通り、草深門から城内に入り、更に聯隊跡、県庁、葵文庫などを見て、城代橋から七間町まで歩いて行った。城の内外も町もほとんど一変したと云っている。変わったのは我々だけ

(鈴木弥門)

ではなかった。そこで昔からの喫茶店に入ると、数人の学友が先客として休んでいた。

十七時半から喜楽と云う所で、遺族の方々も出席されて、懇親会が始められた。静岡在住の幹事の大変な準備と世話で、同期会としては最も盛大な集りとなった。関東から十数人、阪神、名古屋、岡崎などからも出席された。中学卒業以来ほとんど逢うことのなかった者もかなり出ておられた。

会が始まると、その一人でもある春原新太郎君が、専門の内科医の立場から、我々年配者の健康管理について、判り易く、面白く話してくれた。その話し振りが昔ながらで、誠に懐しかった。宴が進むにつれて、座が乱れ、席を移して話相手を変えて行く者が多くなった。久淵を叙すと、話は自ら昔に帰って行った。それは毎年の同期会と同じではあったが、卒業五十年と云うことで、遺族の方も含めて特別に大勢出席していただけた。一層話が広がって行った。

こう云う機会に遺族の方々も話すことは、初めてであったが、中でも鶴殿静一君の奥さんが、三十過ぎたばかりの主人の姿しか覚えていないので、今の年の同期生を見ても見当がつかないと云われた。

言葉には、答える術もなかった。そう云う家族の方々を遣されて、多くの学友が若くして戦死され病没された。また甲子園で活躍し、或いはオリンピックにも出場して元氣一杯だった学友達も今は既らない。五十年は誠に長い歲月であった。

幸い残っている者は、これからお互いに仲良くして行こうと皆で云い合った。そして来年もまた静岡で集ろうと云うことになった。

終りになったが、幹事を勤められた在静の伊藤寿啓、海野堅三郎、北川巻平、佐藤義雄、新聞康貴、下田大助、杉本栄一、滝口佐左衛門、林親男の諸君のお世話に對し厚くお礼を申し上げたい。

(福永正義)

五一回

草野球の友

小生は四、五年の二年間しか在校しない所謂転校組であるので、一般の人の半分以下ということになる。記憶に残るのは、転校試験で代数が〇点だった。高林校長から「休学中に一度位代数の本をひもといたか」と聞かれ、「いいえ」と答えたら、先方が啞然としていた。他の学科はまあまあだったらしく、辛くも転入学できた。

後々も数学は苦手で、数学の易しい高校を物色して、姫路を選んだ。ここでは幸にも籠球の全国大会で準優勝しメダルを貰った。

中学卒業後の交友関係は意外な方面で続いた。草野球がこれである。

春、夏の休みになると、夫々東京、京都、九州などから帰省して来る。二、三人になると「誰々はまだ帰っていないかなア」という風に、自転車や訪ねて回る。九人揃うと相手を捜して、どこかの小学校のグラウンドを借りたりして草野球をやる訳だ。時には練兵場だったかも知れない。相手は何とか商店だったり、色々だが、陸軍の傷病兵さんチームともやった。商店チームには、商業学校等で本ちゃんだった人も居り、兵隊さんにも上手いのが居た。何しろ、白衣に草履の人と勝負するので、負けの嫌だが、勝ち過ぎるのも心に抵抗がある。幾分やり難い相手だった。

我々チームの常連は、永井五・広瀬毅・遠田・石田功・諫山・柳原に、時として飯田の諸君だった様に記憶する。この中、皮の本ボールの経験者は諫山君だけ、柳原君は体格は瘦せ型だが強打者だった。他の連中は、テニス、卓球は

か何でもこなす器用な男達で、私はどちらかと云えば馬力型かも知れない。石田君はテニスでも蠅螂の様な足長の型で、型より勝負強かったが、野球でも打たない割にはよく塁に出た。

監督は居ないので、打順などお互いで決める。概して客観的能力以上の打順を望む手合ばかりで、決まるまで大変だった。僕は2番か6番を打つことが多かった。一度、横内小学校でやった時、どう間違ったか右中間の校外、道を距てた二階家の屋根まで飛ばし、3塁ベースかに居たら、次の広瀬が左中間に大きなのを打って相手の野手が「打つなア」と咬いたのを思い出す。

この様な縁で、普段は東や西に遠く別れて音信のない同級生が、休暇ごとに会っては別れ、これは大学卒業まで続いた。この中、残念にも故人となった石田君が「じゃア、キミが4番か、ウフフフ」といたずらっぽく笑った顔を今も思い出す。

(藤根次郎)

五三回

10月5日。奥野、月見里、山菅三君の肝いりで、久しぶりに在京五十三回卒業生の同窓会が催された。出席者は大石、奥野、小野、

加藤、三枝、島田、白鳥、杉山、園田、谷、徳永、橋本、益田、松前、森下、山菅月見里の十七名。会場は平河町のビストロ・ラ・ボスト。同店は戦前の閑院宮邸、李王邸及び最近話題になっている砂防会館に近接する高級地にあり、奥野君のお嬢さんが経営するフランス料理店である。

数年ぶりの会合であり、諸兄の元氣な顔が揃ったところで、ディナーとともにその後の情況報告が始められ、話も急速に佳境に入った。宴が進むにつれて、淡白なる話法、ウィットに富む話題等一言一句に各人の性格がにじみ出て来て、旧懐の念が胸をつく。

企業に参画する現役社長あり、定年をむかえ第一線から身を引いた者や第二の人生に入った者などそれぞれの立場から現況や思い出が尽きることなく語られる。平均年齢が六二・五才になったためか主たる話題は健康問題であり、老化防止には「ゴルフが良い」「俳句が良い」「身体をいじめ抜くのが良い」……と自画自賛の健康法がひれきされたが、最終的には個々の健康には三枝大先生の御意見を頂くことになったのはむべなるかなである。しかし、静かに思えば、つまるところ、このようなふ

人間気で旧友と共にオダを上げること自体が最高の健康法であるように見受けられた。

老童と云うにはあまりにも若すぎる同窓十七名による才気あふれる暖かい集いであった。

(徳永悠久)

五四回

今年も関東同窓会はスエヒロで開かれたが、五四季会は大藤直久佐野(金刺)資郎、細井(中川)庸司の三君と小生で、いささか淋しい集いではあったが、集まった面々は皆元気で、還暦はすぎても意気軒昂であった。なお、後部に名簿の訂正があるが、直すと同時に自分の名簿も間違いがあつた事務局か小生宛申出て下さい。

(庵原悌次)

五五回

槍―穂高縦走

私が山に興味を持つ様になったのは、東京に転動した四十三才の時でした。本社では写真感光材料の技術関係の仕事だったので、戦後からの趣味となつていた写真撮影をもっと勉強しようと思つたからです。山の写真を撮るため、初めて奥多摩の山へ行きました。立川から五日市線で五日市駅下車、

地図を頼りにブラブラと写真を撮りながら日の出山へ登りました。疲れを何も感じない内に、実に安々と登つてしまいました。このハイキングでは、良い写真は一枚も撮れませんでした。汗を一杯かいて歩くことの清々しさ、奇麗な空気、オーバーな表現だが、中学時代以来の快適な心地良さ、之が登山に病みつきになった動機でした。それから奥多摩の山々、御岳山、大岳、御前山、三頭山、鷹の巣山等々。そして丹沢の山へ、

何の理屈もなく、唯汗をかくことに、頂上に足跡を残すことに喜びを感じて。人間とは不思議なもので、より高い山への志向は強まる一方で、雲取山を初めて奥秩父、八ヶ岳、南アルプス、北アルプスへ仲間と一諸に登りました。

この数々の山行の中で最も印象の深かったのは友人と二人で登った主題の槍―穂高縦走でした。この縦走は、最初の企てから三度目の正直で完成したからです。

第一回は昭和四十九年の晩秋十月末で、上高地から槍沢を登った。曇天で寒い日でした。登山者は私達の外に誰もいません。きつと先に行つてしまつていたんですよ。私達のスピードは超スローモーションでしたので。小さくなった雪

渓を左に見ながら、夏なら花が一杯に咲いているだろう草つきのジグザグ道を喘ぎ喘ぎ登りつめて、やつとのことでモレインの上に出た時は、もう午後四時を大分廻つて居り、段々薄暗くなり始める所でした。早く行かないと暗くなつてしまふ。頑張ろう。しかし、この頃から、霧が出て来ました。気がばかり焦れど足はノロノロ、殺生小屋まで、あと三十分位の所で日はトッブリと暮れ、今迄霧の合間に時々見えていた小屋の灯火も今は濃い霧のため全く見えません。

しかも、雪もバラバラと降つて来て足も滑ります。私達は途方にくれました。行くか、ビバークするか、決断しなければならぬ。矢張り、行くのは危険だ。ビバークしよう。確か、このあたり坊主の岩小屋があつた筈だ。探そうと思つて周囲を見渡した時、丁度、この所に岩穴があつたのです。全くの偶然でした。無信心の私でも天の助けと神に感謝せずにはいられないでした。岩の隙間から雪が吹き込む中で、寒さにふるえながら、友人と語り明かし、ひたすら夜の明けるのを待ったのです。翌朝、山は一面の新雪で強風が吹き荒れています。縦走は断念せざるを得ませんでした。しかし、貴重

な教訓を学ぶことが出来ました。若し岩穴が無かつたら！生命は大切にしなければならぬ。そのためには月並だが登山の心得を復習しよう。特に厳しい条件或は天候の激変に對した時の平常心、この心があつてこそ、適確な判断が可能となることを身を以て体験したことです。

二回目は五十一年の秋、十月中旬で、殺生小屋で泊り、翌日、縦走の予定でしたが、明方から激しい雨で、足場が滑り危険であるので、あきらめて、雨の中を槍の穂先に登つてから、アルプス銀座を縦走し、燕岳から下山した。

翌五十二年に生憎もなく、第三回目の挑戦をしました。今回は前二回より時期を早めて、十月初めとした。私達が何故秋ばかり狙つて、縦走し易い夏になかったかと言うと、夏は人が多く、小屋も飽詰めで、秋空の下、心ゆくばかり、山行を楽しむことが出来た、そして台風シーズン後の十月以降が最良と思つたからです。上りはいつもと同じ「熊に注意」の立札のある瀧沢コースで目指すは最初の宿泊地、殺生小屋です。このコースを私は何回登つたことだらう。数えて見ると今回が五回目でした。歩き慣れた道を快調に登

りました。本当はノロノロなのですが私の年(当時五十三才)からすれば快調そのものだった。高山では秋も深い時期なので、さすがに登山者の数も非常に少なかった。今回は何の支障もなく、予定通り小屋に着くことが出来た。明日の槍―穂高縦走の完成を暗示するかの様に。

明くれば十月一日、快晴です。今日はいよいよ念願の、寧ろ、あこがれとも思っている縦走に出発だ。昼食は南岳避難小屋。之から先には最大の難所、大ギレットがある。大変な胸騒ぎとスリルへの挑戦とを心に交錯させながら一歩々々と近づいて行く。岩場を大分進んでから、稍下つてから、巾の非常に狭い一枚岩を跨ぎながら越える、左右は全くの絶壁の所を。そして直ぐ平坦な場所に出た。大ギレットはこれからかいと友人に聞いた。友人は答える「もう通つてしまつたよ」私は口をアングリ、と開けてしまつた。しかし、私は難所を通過した安堵感からか、本当はヤレヤレの気持となつた。所が前方の高い岩壁を見上げて、ゾーッとした。岩登りのコースの様に見えたからだ。登山者が岩につかまりながら、ユックリ、ユックリ登っているのが見えた。とても

私では無理だと思えたのだが、ここまで来た以上、戻ることも出来ない。エイ、ママヨと登って行った。しかし、それ程の困難さも感じることなく、北穂小屋に辿り着いた。今日はここで宿泊。十月二日、今日も快晴だ。淵沢岳越えに向う。友人は今日は昨日のコースと比べれば大したことはないと言うのだが、実際は結構、危険箇所がいくつもあった。慎重に走破して無事、奥穂小屋に到着。昼食、友人がノンビリ、昼寝している間に、私は奥穂高に登り、ジャンダルムを見、周囲の山々の眺めを十分楽しめ、三度目の正直で目的を果たしたことを山の神に感謝しました。いよいよ下山、淵沢のナナカマドの海が真赤に燃えていた。私達の山行の完成を祝うかの様に。

(法月重雄)

五七回

この欄で計を報せなければならぬのは、まことに辛い。平谷久君が十月八日、心筋梗塞で亡くなった。心臓に宿病を持ち、近年はゴルフも、ドクター・ストップだった。しかし、東洋曹達工業の理事、日本海水化工機の社長として、また、この七月からは、さらに佛東北鉄鋼の社長として元気に

働いていた。従って彼の死を聞いたときは、わが耳を疑ったのであった。府中市の観音寺で、十月九日お通夜、十日密葬、そして二十四日新宿太宗寺で社葬を行った。いまはまだ平谷君の冥福を祈るしかない。合掌。(影島利邦)

六〇回

読書雑感

人には本を読むことを勧めるが自分とは問ひ質せば……。多少エクスキューズにはなるが、最近はいっぱいとセンサとの間に、本来ならば不要なはずの「虫眼鏡」という厄介な読取装置を入れないと識別できないことを口実に、本とは何となく疎遠の間柄になってしまったようである。にもかかわらず次の二冊の本を取り上げてみた。

その一つは『ながい旅』(大岡昇平著)、もう一つは『気づけりのすすめ』(鈴木健二著)である。前者は読むに当たって、自分の思想なりものの考え方と照らし合わせながら噛みしめて味わうことが必要であり、いわばごくのある本であるから、仕事を抱えている人の忙中の閑の読書としては不向きかも知れない。またこの本はその内容からしても、端的にいうと

世の中の試練を経てある程度の年齢層に達してきている人がじっくり読むべき本なのかも知れない。いまここでご紹介したいのは、むしろ後者で、これなら肩こりのしない、若い人向きの本といえよう。とかく物質文明の恩恵に浴し過ぎてしまった現代人が、精神的な面での人間本来の原理原則を忘れてしまっているのではないかというところを、ふと甦らせてくれるような内容の本である。

かつて戦前戦中といわれる時代には、週に一、二時間ずつ修身とか倫理という教科が課せられていた。それはどちらかといえば、「ねばならない」「べきである」という結論だけを強引に押し付けた教育であつたように思われる。この本も、狭いによって期待しているゴールは同じであるが、そのゴールに導くためのストーリーがあるだけ親しみやすいし、また親切的な論しとなっている。

旧海軍の時代に、「初級士官心得」などという時代があった小冊子を通じて英教育を受けた者も、すでに三十余年も経つてしまうと当時の精神修養や狭はその片鱗すら止めていないのが現状であろうか。ために妻子からは、「これでもかつて海軍教育を受けた者かし

ら」と蔑みの一瞥を投げかけられることもしばしばである。また、昔の部下からの賀状に「最も海兵出身者らしいから指揮官だった云々」と記されていたことなど思い合わせて、この本を素直に一読のうへ、「心の身締り」を正すための一助にしたいと考えている。

(渡辺清夫)

六二・六三回

同期会会誌を創刊

59年2月には修善寺一泊

58年2月18日の同期会(東京竹橋会館)の盛會ぶりを記録し且つ、これを同期生全員に報告したいという事から同期会会誌を編集し、58年10月に創刊号を発行した。

内容は2月18日の同期会を誌上録音方式で紹介、全員のスピーチを顔写真入りで記載した。その他百年祭等静岡での同期会報告や、在学中の思い出を語る随筆、植林の思い出、校舎炎上など百年史の中から関係の深い記事を紹介し、又、同期会ゴルフコンペや関東同窓会の記事、お便りコーナー、名簿の修正等で30頁だてB5版でつくり上げた。

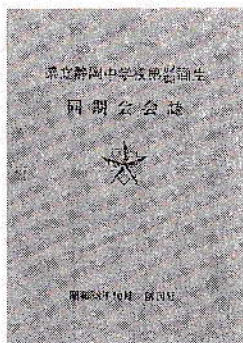
同期生からは、大変よい企画であると喜ばれており、一年位した

ら第2号をと期待している。

又、59年2月11日(土)一泊で修善寺の「のだや去留庵」にて同期会を開催する予定であり、多数の参加が予想されている。

ゴルフ会も計画され、ナイトアソシエの同期のつきあいが楽しみな事である。

なお、ご希望者に同期会会誌を贈呈しますので、お申し越し下さい。



第三回ゴルフ会

伊香保で開催

五十八年十一月十一日、夜来の冷雨も上り、おだやかな日の中伊香保カントリークラブでゴルフ会を行った。

沼田市に会社を持つ石上昭夫君の肝煎で、前回優勝の川手君とBの大塩君が幹事となり十名参加の第三回コンペと相成った。前夜は洪川の芝中園に一泊、盛大な前夜祭で地元のお姐さんの大サービスを受けて、意気大いに上り翌日

の決戦にのぞんだ。

コンペは地元に残り強い石上君がネット71で見事に優勝した。日和良し、コース良し、パートナー良しと楽しい一泊ゴルフであった。

今回は来年、修善寺一泊同期会の翌日二月十二日に大仁ゴルフクラブで行おうと決った。ゴルフ愛好の同期諸兄多数のご参加をお待ちします。

参加者 川手生己也 伊東守 大石一輔 吉田和男 谷繁次 山口登 石上昭夫 喜多川隆司 大塩幸男 大草宏(スタート順)

(伊東守)

六四回

又今年も七夕が巡って来た。天気は曇、名波幹事の努力もあり三十一名という大勢の友がいつもの日いつもの場所、新宿西口今佐に集い、お互いの健康と活躍をたたえあった。

例年の如く、静岡より秋山義明君、河村勉君、山下啓也君、渡辺靖君はるばる上京せられ、ふるさとの言葉を皆におもいおこさせた。

静岡商の大原君、特別参加の69期松島玲子、神谷貞子女史も参加下され大いに会が盛り上った。

今年のスピーチテーマは、我が家族としたいと渡辺素夫君の提案

が始まり、渡辺君の教育パパ東大(息子)慶大(娘)入学勉強方法を披露せられ、皆熱心に聞き入った。

我が子の為に静銀を辞して上京し、目下画材屋を経営して居る栗田行雄君。自己の政治信念を奥さんと共に貫いて、又その息子さんも父母の志をついでいる増田政雄君。会社倒産で脱サラから会社を興して成長した村上喜代二君。皆それぞれの話中に生活と、我が子の教育に格闘しているんだと感動した。

六時より始った会議、十時迄四時間、あつという間にすぎ、青春の気さめやらぬ興奮もそのまま校歌斉唱し、来年の再会を約して散



会した。

十月十日第三回ゴルフ大会を大仁カントリー倶楽部で開催した。

前夜の雨、台風接近の報で友が来なくてコンペが流れるのではないかと心配し乍ら夜を明かしたが、予報は狂って薄曇りで絶好のコンディションとなり、予定した仲間十三名が集まり、白球を打って秋の一日を富士のシルエットを前に、或いは後にし乍ら楽しんだ。

優勝及びベストスコアは渡辺宏一君準優勝は望月坦君に輝いた。特筆すべき事は、昨年胃を切つて、今年になって一回しかクラブを振つてない神谷武男君が、並いる猛者を押しのけて、ドラコン賞をとった事。

医者、弁護士両先生の大ブービー争いで、午前中秋山八二、名波七六で、名波逃切りかとおもえたが午後になり、名波八五、秋山七一と猛追し逆転して、ブービー賞と大波賞を獲得した。

追伸
昨秋盟友、小長谷但男君が胃癌のため死去されました。つつしんで哀悼の意を表します。

六六回

(野沢正憲)

「一人々々近況を報告し合いま

したが、この一、二年で勤め先や仕事を変った人が少くなく、五十才前後はやはり一つの転機ではないかと思わせられました」

昨年の同期会で今年同様記録を仰せつかった私はこう書いたが、その時何かしら予感のようなものがあつたのだらうか。そう書いた私自身、一部上場の大会社から中小企業に移り、今年の同期会では出席の諸兄に昨年と変った名刺を配って歩く破目になった。そう云えば、今回頂戴した名刺の方も、肩書きが変わっているのが二、三に止らなかつたような気がする。

思い起せば三十九年前、私は焼津の田舎からボツと出の中学生であつたが、そのような私もまじつたわれわれ新人生に、当時の教頭の井沢先生は

「諸君は将来社会の基幹となるべき人材であるから、精々自愛自重してほしい」と話された。小学校で帝国陸軍予備役下士官だった担任の先生から

取鳴られ、立たされ、なぐられて過して来た私は、教頭先生の話を聞いて、驚く一方実に奇妙な感じを抱いたことを今でもありありと思ひ出される。「こんな私たちが社会の基幹とは?……」というわけである。しかしあれから四十年

近く、今宵肩を抱きあって話し込んでいる同級生たちは、みな社会の一隅で立派に責任を果たしている男ばかりである。

さて、六六回の定例同期会は毎年十一月の第一金曜日に、県立高女出身のおかみさんが経営する新橋の「太洋」で開かれていた。今年、十一月四日の夜には、田中俊男、山下智康の両幹事、内田幸雄、大塚修弘、大坪信之、大村敏夫、河守輝雄、菊田聡裕、北村友孝、関本和男、曾根錦吾、安池智策、山下裕一、村松の在京メンバーのほか、特別ゲストとして在静岡の清水仙一郎兄が馳せ参じた。これは珍らしいと挨拶もそこそこに、静岡のアイツはどうしている、コイツはまだ生きてるか、仙チャンはたまに質問攻め。静岡の連中とも会いたいなアという話になり、来年は中間点の熱海あたりで合同の同期会をやるうではないかとの提案が出された。機運熟してこの提案が実現に向うことを期待するや切である。(村松武司)

六八回

同窓ゴルフ

ゴルフを始めたのは二十年程前のこと、当時国分寺の自宅から世田谷の砦ゴルフ場まで夏場出勤前

の早朝ブレーへせつせと通ったものだった。横浜の保土ヶ谷へ転居した後は、保土ヶ谷CC（現在の横浜国大キャンパス）の早朝モグリの常連メンバーとなつて週に四日は通つたものだった。しかし悲しい哉、生来運動神経発達不良のため腕前は一向に上達しないまま歳月が流れ去つて来た。

ところがこの夏ハブニングが二つ起きた。

その一は札幌で週末の一日をクラークCCでブレーをした時のこと。その際利用した貸クラブのドライバー（マクレガー）がとても使い易く、フロントに乞うて譲り受け持ち帰つて来たことである。風雪に晒された古いクラブはまこと掘り出し物で、化粧直しをしたところ過去最高のドライバースョットが出るようになった。

その二は東京五日市CCの十周年記念杯に出場、六アンダーで百十人中七位に入賞したことである。こんなことから又々お熱がある。同窓生とはつい最近星野敏郎君（六十八期）と弟の林洋右（七十一期）とラウンドした。その他では同期の蔵西洋君、鈴木昭夫君、杉山忠男君等にお手合わせ頂いた。特に雨宮明生君の場合は三鷹のI

CUで星野君等と共に彼のフデオロシに立ち合った思い出がある。荒唐じつ子さんもかなり熱心なようであるが残念ながらまだ一緒に緒する機会がない。

ところで卒業以来三十年お会いしていないが、ゴルフを通じて懐かしい先輩がお二人居られる。まづ安田正弥さん（六十六期）——生憎縁がなくてまだ一度もおうかがいしていないが、伊豆大仁CCへは仕事上も何度かブレーの企画に出くわしたし、この間も或る人から元氣なお噂をうかがうことが出来た。蒲原から静岡まで汽車通（学）の頃のことかその度に思い出される。二人目は矢張り六十六期の原野谷明治さんである。同姓同名の人はそうざらにはいないと思うが、桜ヶ丘CC、レインボ

ーCC、それにもう一ヶ所（リンポート？）でHCCP掲示板に名札をお見かけして都度ご健在ぶりに接した思いをしている。——誌上を借りまして無沙汰をお詫びすると共にますますのご健勝をお祈り申し上げます次第であります。

七〇回

（林明宏）

わたしは七〇期が生まれた年は、昭和一の終りと二桁の始ま

りで、両方に跨がっているといつてもいいだろう。いわば兩世代に跨がる中間的な生まれ方をしたせいか、物事の界となる場面に出合う機会が多いような気がする。

わたしは、昭和二〇年の敗戦を境にした戦前、戦後の生活を小学校二、三年という年代に体験させられ、その後の人間形成にさまざまな影響を与えられてしまつた。

静岡の歴史の中で、駿府城内にあった陸軍兵舎の跡を使った暗い校舎と、現在の長谷にある明るい校舎とを、股にかけて体験した年代は、やはりわたしたち七〇期だった。入学したばかりの生徒を迎えた古い兵舎の中に、先輩達の情熱と伝統で受け継がれてきたあのH・R制があった。わたしは二H・Rだった。いまでも忘れられない光景がある。

二H・Rの上級生たちが、新入生歓迎コンパを教室で開いてくれた。コンパが盛りあがった頃だった。上級生の一人が教壇にあらると、いきなり「おまえたち、濡れ

場というのを知っているか」と大声で言った。それは二年生で演劇部の林さんだった。みんながはっとしたとき、三年生の一人から「林、やめておけ」という声がか

かり、林さんはそれ以上説明することとはなかった。わたしはそのやりとりと、演劇部というイメージから、濡れ場というものは、きっと男女のことにちがいないと直感した。正確には何のことかわかかなかったが、男女の秘めごとではないかと感じとつたことで、大人になったような気がした。先輩は、入学したばかりのわたしたちを成人として対話の相手にしてやろうとしたのだと思つた。高等学校と先輩というものに鮮烈な印象を持つた。

わたしが東京地方裁判所へ入所して七、八年たった頃、二H・Rの先輩で当時三年生だった萩原昌三郎さんが裁判官として赴任してこられた。萩原さんはわたしに、静岡卒業生の消息を話題にされたが、わたしがかるうじて消息に通じていたのは、卒業して以来ずっと互の家族ぐるみで交際を続けていた長倉（ハガネ建築設計事務所）、井田（アイトネーチャー）、新聞（函館水産大学）、渡辺（静岡トヨタ）の同期四人だけで、そのほかの人たちのことはまったく知らなかった。萩原さんは、さっそく東京にいた広瀬（防衛庁）、牧野（東レ）、小山（電々公社）君らに連絡をとってくれて、ま

もなく有楽町で再会する機会をもつことができた。その夜は、二H・R七〇期の数名が、先輩を囲んだ珍らしい宴席となった。萩原さんは現在広島高等裁判所松江支部におられる。後輩の消息まで把握されていた先輩にくらべ、後事を託されたはずだったわたしは、一度とて責を果たしていない。

H・R制がなくなることを知ったとき家族が離散されてしまうような不安と淋しさを感じた。良い面だけではなく、廃止しなければならぬほど悪い理由があったのかもしれないが、古い兵舎の残骸とともに失われていくにはふさわしくなかった。わたしは、いまでもどういうわけか、H・Rで一緒だった同期生には強い親しみを感じてしかなかった。

わたしたちが、これから巡りあえる最大の境は、二〇世紀から二一世紀へ移り変わる時ではないだろうか。それまでに一七、八年の余命を維持していくことは、わたしにとって容易ではないはずだ。二〇〇〇年あるいは二〇〇一年の同窓会か同期会に、白髪・老顔ながらも、笑みをたたえて出席できれば、わたしは自分の寿命に充分満足することにしようと思つてゐる。（松浦洋一郎）

謎解きの随想

40回野崎操一氏の著書「心の軌跡」から

編集委員 月見里 得知郎

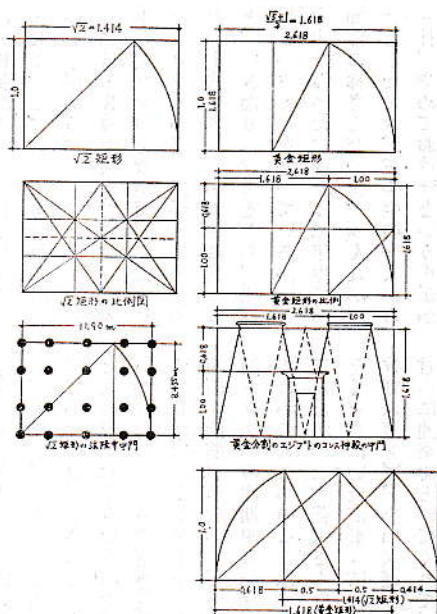
法隆寺のモジュール

法隆寺はパランスのとれた美し

しているの、ここでは法隆寺のモジュールを探つて見ることにした。

法隆寺の伽藍は金堂、五重塔、中門、回廊の順に長年かかって建造されたらしいと言われているが、それらは無関係に建てられたのではなく、初めに総合的な計画があって、その中の主なものから順次、再建されていったのであろう。

まず金堂の下層の縦横は一〇七八六×一四・〇二メートルで一対一・三の矩形。その対角線は長さの単位を天平尺にすれば、きれいな数字になるのだが、統一するために『奈良六大大観』に記されている実測値を採用することにした。金堂の中心は回廊の東北隅の二等分線と、回廊の東門・西門の北寄柱を結ぶ線との交点に当たっている。また五重塔の中心も、回廊の西北隅の二等分線と東門・西門の北寄柱を結ぶ線との交点であるから、金堂と四重塔とは回廊内



法隆寺のモザイク $\sqrt{2}$ 矩形

に左右対称の位置に建っている。

次に五重塔の初層は六・四一六メートルの正方形で、対角線は一辺の長さのルート2倍の九メートル。これは金堂の対角線の長さ一七・七メートルの約半分である。ところが塔の高さは三一・五五四メートルで、金堂の高さ一六・〇七七メートルの約二倍あるから、中門を入った辺りの、斜め前方から眺めた金堂と五重塔の、対角線の長さと同さを掛けた面積をもつ視野は同じ大きさになって、どちらも同量の重厚さを感じさせ、塔に雌雄をつけ難く設計されている。

中門は横縦が一・九×八・四五メートルで、一四一對一のルート2矩形になっていることは、

明治末期すでに伊東忠太博士に

って指摘されていた。中門の中心

は本来ならば正面南回廊の中央つまり金堂と五重塔の中心の中央にあるはずなのに、金堂下層の西壁と五重塔初層の東壁との空間の中央線上に乗るように、南回廊の中央から五重塔のある西側へ一・九メートル回廊の柱間の半分寄せてある。この点も謎の一つだが、広くて低い金堂の見える右側と細くて高い五重塔の見える左側とのバランスを取るためだろうというのが通説になっている。

回廊は現在、講堂のある奥の方へ凸形になっているが、創建当初は矩形であったことが、回廊跡の遺構調査の結果明らかにされた。この回廊の横縦は二四×一七柱間

長さは九〇・四七×六二・八八メートル(平均)の一・四三九対一であるから、中門と同じくルート2の矩形に近いことに注意を要する。

さて、ルート2矩形は矩形の中でどんな位置にあるのだろうか。

矩形にはいろいろあるが、正方形は固過ぎるし、正方形を二つ並べた一対二の長方形は実用的には組み合わせるのに便利なので、畳、煉瓦など建築材料の形に利用されるが、一つの形としては細長過ぎる。そこで短い一対一と長い一対二の中間で、短からず長からずの矩形が考えられる。

法隆寺の場合を見ると、一は五重塔の平面、一・二五は垂木と肘木の断面、一・三は金堂の平面、一・四一四（ルート2）は正方形の一边を一としたときの対角線の長さを他の辺とした矩形で中門と回廊の平面および後述する伽藍の立面にと、中間的矩形が各所に応用されている。その他の矩形には一・五、黄金比の一・六一八、対角線を二にとった一・七三二（ルート3）などの矩形がある。

脇道にそれるが、黄金比とは一つの長さを $A:B=B:(A+B)$ になるように分けたものの即ち、 $0.618:1=1:1.618$ の「フィボナッチのコンス神殿の中門に見るように」

用いられた。ル・コルビュジェのモデューロールというのは黄金比矩形とルート2矩形の正方形の部分のみを重ね合わせたもので、外郭だけの点からは1対2・0・三二の長目の矩形なのだが、彼は外形より各分割部分の比例に、モデューロールの意義を見出しているのである。これは本論を逸脱するので詳しいことは省略する。

法隆寺には、ルート2矩形を中門、回廊の平面のみならず金堂、五重塔、中門を含む回廊内域の伽藍全体の立面も、回廊のルート2矩形を立てて水平に半分にした下方部分に相当し、それを更に真中で縦に二分すると、金堂を含むル

ート2矩形と五重塔を含むルート2矩形になる。しかも金堂と五重塔の中心線は、それぞれのルート2矩形の正方形の部分の中央におさまるのである。

黄金比矩形は代数または幾何学から割り出さなければならぬが、ルート2矩形は指金一本あれば宮大工が容易に画くことができる。というのは、指金の裏目には基準になる表目の目盛をルート2

倍した角目の目盛が刻んであるから、表目で縦にA寸をとり、裏目に返して横にA寸とって矩形を画けば、縦横が1対ルート2となつてルート2矩形が出来上がる。法隆寺ではあるいは細部にも用いられ

ているかも知れないが、全体的平面にも立面にも、基本的なルート2矩形を取り入れているのを発見することができる。

これらのことから、法隆寺の調和的均衡美を生み出しているモジュールつまりコルビュジェの言うモデューロールは、ルート2矩形ではなからうか。

法隆寺中門は阿字門

法隆寺の中門は怨霊封じの門という説が唱えられてから、拝観者の中には怨霊封じの門はどれですかと尋ねる人があるそうである。

寺では、法隆寺ひいては聖徳太子のイメーを損うものとして困惑しているという。法隆寺の高田良

信師が『法隆寺の謎』で、インサイダーとして多くの文献資料に基づき、世に伝わる法隆寺の謎について実証的に解説しているが、中門が怨霊封じの門でないとの反論は明確でないように思う。建築学者や歴史学者は必ずしも怨霊封じ説に賛同しないだろうけれども、専門家が黙認していると、その内に中門の通称を怨霊封じの門と観光案内書に解説されることにならないとも限らない。

もともと法隆寺の中門は謎に包まれていて、種々の説が唱えられ

ていた。鎌倉時代の『太子伝私

記』に「中門が四間で正面中央の間がないのは太子の子孫が断絶するように真ん中に柱がある」と記されているが、怨霊封じの遠因をなしているように思われる。真言宗には、二つの入口は胎藏界と金剛界を意味する説があるという。建築学的解釈として、伊東忠太は『奈良六太寺大観』に、「中門の正面を三間にすると柱間も柱径も

金堂より大きくなって不自然になり、五間にすると余りにも間が狭くなる。中間の四間とすれば金堂に一步譲った形となり相互関係が整うから四間にしたのだらう」関野貞は「金堂と堂を左右に並べて建てたから、この両者に対して特

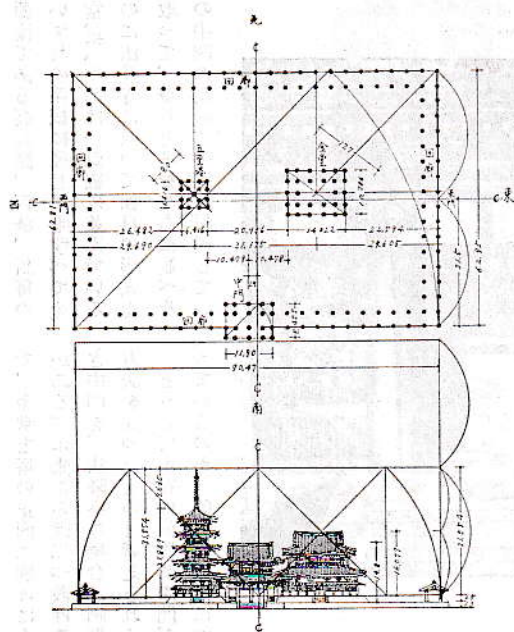
に入口を一つずつ設けたのではあるまいか」また天沼俊一も「金堂と五重塔が東西に対立しているの

仏の顔になっている」というのだ

が、創建当初には講堂、鐘楼、経蔵は建っていないが定説であるから、後に唱えられた説であろう。仮に仏面説を採るならば、

金堂と塔を両眼、東西の案門を両耳、南大門を口、中門を鼻と見た方が、鼻は呼吸を司り空気の出入する器官であるから適切である。

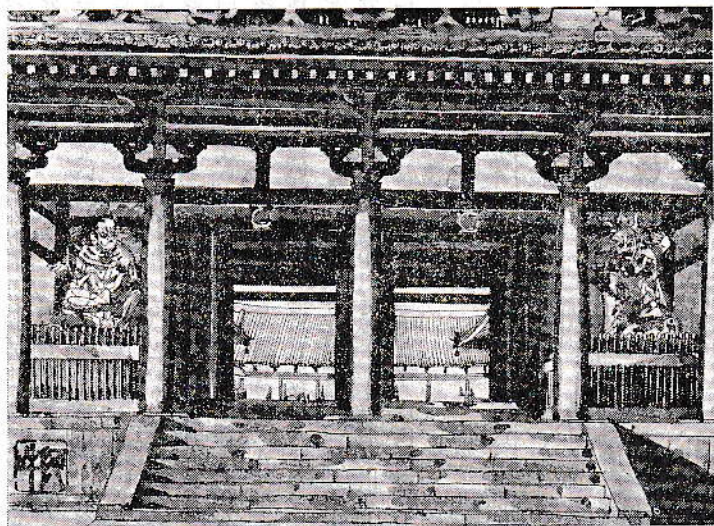
最後に、梅原猛の怨霊封じ説の論旨は「一、中門が四間で、偶数間が混在するのは建築学的に面倒であり非合理である。奇数間にすると真中に本尊を安置することになって不安を伴ったので、偶数性の原理に基づいて四間にしたために中門の真中に柱が立った。二、出雲大社、元興寺極楽坊、法隆寺金堂上層、同寺五重塔最上層、当麻寺東塔最上および中層は偶数間ですべて怨霊を弔う社寺である。三、講堂の間数は大い奇数であるのに法隆寺、四天王寺、山田寺など太子に関係のある寺に限って偶数間である。四、奇数は陽で瑞祥であるのに対し、偶数は陰で死の数である。五、偶数の間数は子孫断絶の建物で死霊を閉じ込める。故に偶数間の中門は太子の怨霊封じ込めの門である」以上、中門に関する代表的な諸説を列挙してみた。飛鳥奈良時代の伽藍形式はその



法隆寺のモデル・√2矩形

源流である高句麗、百濟、新羅のいずれの系統に属してもすべて金堂、塔、中門は一直線に並んでいるのに法隆寺に限りて独自の形式を取って、金堂と塔を左右に並べその中間の正面に中門を配置している。

で、金堂と塔の正面に別々に中門がある。本来ならば二つ設けるべき中門を、法隆寺の場合は画期的方法を採ったものと考えられる。どうして現在の位置に中門が建っているのか。配置の決定について



法隆寺の中門

る。法隆寺は金堂の正面にも塔の正面にも門を設けていないが、通常の構想では金堂と塔の正面に門を設けるのではないかと推測される例は甲可寺(滋賀・八世紀後半)

て可能性のある過程を推定してみよう。まず塔と金堂の中心は東西の回廊の中央を結ぶ線上にありそうなのに、東西の楽門の北寄りの柱を結ぶ線と、西北・東北の回廊

入隅の二等分線との交点を塔と金堂の中心にしている。これは南庭を広めにするためだったろう。そして、塔と金堂の中心から南回廊に垂線を下した交点を二つの中門の中心としたのが甲可寺であるが、法隆寺では二つの中門を中央で一つの中門として合体させた。これは二つの門を一つの門に省略したのではなくて引き寄せた。だからその境目の柱が中柱として存在するわけである。

仏教建造物の中門をただ建築的にのみ考察するのは楯の一面に過ぎないので、唯心的の意義も質さなくてはならない。中門の唯一の特長は左右に阿吽二形の金剛力士像が安置されていることで、これは仏域に邪惡の侵入するのを防ぐためばかりでなく、阿吽を教えているのである。中門はそこで阿吽の行を修する場所ではなくてはならない。右の阿形金剛力士の立っている入口が阿の門で、大日如来・菩提心・自証悉地の門左の吽形力士の方が吽の門で、金剛薩埵・涅槃・化他・行因の門。一切万有は本来不生のものであるが故に不滅のものであることを、阿字本不生の理といい、この本不生の阿字を觀する觀法を阿字觀といい、これに到達することを阿字門に証入する

といわれている。阿字門に入るは即ち上求菩提、出づるは即ち下化衆生の門である。阿字門は教義上の門であるが、それを具象化したのが中門に他ならない。

以前は中門を潜って五重塔と金堂を仰ぐことが出来たのだが、現在紙つてぶてのような観光公害防止のために中門を柵で囲ってしまつて左側の入口から入れている。文化財保護と衆生教化と、聖徳太子はどちらの道を望まれるであろうか。伽藍配置を仏の顔に譬えるならば、鼻に当るから二孔あるのは当然であり、左右の阿吽二形の金剛力士それぞれに入口を設けた阿吽の門は、これこそ阿字門ではあるまいか。

江の島会

A ごめんなさい、あれ程固いお約束して居たのに急用出来ちゃつて、どうでしたの江の島会は？
B よかつたわ、あんなに楽しい会とは思わなかった、本当に。残念だったわねえ。

A 大勢いらしたの？

B そうねえ、五六十名かしら。あ、ちょっと待って出席者名簿があるから。ほら33期の大先輩小山亮清さんから84期の近藤猛さん戸塚康男さん今井佳子さん迄巾と言

うか層が厚いわねえ。この35期の和田頭太郎さんは毎年奥さんご同伴だそうよ。やはり奥さんが江の島会を唯一の楽しみになさつて欠かさず出席されてるとか。そうそう78期の白木桃子さんね、この方はお嬢さん3人もお連れになつてうらやましかったわ。それに42期より上の方が10名近くもご出席なの、如何に江の島会が家族的で和やかで楽しいかわかるわ……

A すばらしいわね、女性会員も多そうね。

B そうねえ：一、二、三：9人ね、年々あえるそうよ。

A ご遠方からの方もいらつしやるようね。

B そうなの、この伏間順叔教頭先生は母校の校長代理として、42期の宮崎忠輝さんはわざわざ浜松から、そうそう59期の海賀清さんは遙か遠く神戸から関西同窓会を代表して又73期の鈴木真十さんは名古屋から中部同窓会を代表し59期の勝呂清さんは富士の同窓会からよ、もちろん78期の望月昭彦さんは母校同窓会本部事務局の代表で、それに関東同窓会からは数え切れない方々が……。
A すごいわね、一江の島会にこんなに方々から来て下さるとはあまり聞いた事無いわ。

B そうでしょ、村松直会長さん(42期)のお話では創立35年になるそうだけれど、長い歴史と伝統と実績が今日あらしめ今後の発展が限りなく楽しみとか、とにかく和やかで明るく楽しく時の立つのも忘れてしまう程よ。



A 何時頃までかかったの?

B そうね正午からきちんと始まって総会、記念撮影、懇親会が一時から終ったのは6時近くよ、まだまだ続きそうだったけれど遠慮したらいいわ。会場の恵比寿屋旅館は35期の大先輩永野清さん(前会長)の経営でお料理もおいしいし、皆さんとても親切で大サ

ービスよ、来年又ねとお礼を言っ
て出たんだけど、あなたその後
が大変なのよ…聞いて!

A 話して話して…何なの?

B あのね、江の島へ渡る長い
橋があるでしょう。夕方の涼風に
火照った頬を冷やしながらぶらつ
いて行くと、例のささえの壺焼と
かおでんで一杯のまぜる屋台が並
んでいるでしょうが、そこでもう

67期の成岡英彦さんが馴染みのお
ばさんの店に陣取って下さつ
て、店の中は狭くて暑いので道路
向かいの石垣にテントを敷き、ま
るで電線の雀よろしく20数人がず
らりと並ぶ。椅子をテーブル代
りにそこへおでんやらお酒やらが
次々に運ばれ2次会が始まるの。

道行く人々は何かと目を丸くし
て眺めるし、中には励ましの声を
掛けてくれるあんちゃんも居るし
とにかくよそでは味えぬ最高の気
分よ。これは恒例になって居て今
では江の島会のプログラムの一部
になってしまっているみたい。それ
に女性の大部分が残るんですもの
いかに和やかで楽しい雰囲気かわ
かるでしょう。帰りの小田急ロマ
ンスカーの切符を無駄にしまし
った方もあったのよ。

A うらやましいわ、来年は是
が非でも参加するわ。九月の第一

日曜ね。

B 九月二日よ、同期を誘って
大挙して押し掛けましょよ。

A ねえ、明かるく和やかで楽
しい雰囲気はよくわかるんだけど
ど具体的には何か特色があるの?

B そうね、総会は型の如くな
んだけれどテキパキね。関西同窓
会の海賀さんの祝辞はすば抜けて
面白く、会の雰囲気を一層明かる
く盛り立てて下さったわ。懇親会
の方は、同期の人が多いので夫々
にお話が弾んでにぎやかな。余興
は前より少なくなったようだけれ
ど、それでも自主的に歌を歌った
り、声色をつかったり、変わった所
では会長さんが白木さんのお嬢さ
んの為に面白い手品をやって下さ
ったわ…そうそう68期の星野敏
郎さんのお話というより気魄のこ
もった演説は歯切れもよく、6年
間在学したのは俺達だけだと、繰
返し威張っていたのは愉快だった
わ。それから総会の時だけど伏間
教頭先生のお話では現在の静高の
先生方や後輩の生徒、ご父兄の皆
さんが想像以上に高きを仰ぎなが
らしっかりと頑張っているそ
うでどんなに嬉しかったかわから
ないわ、矢張り伝統が生き続けて
いるのね。

A ふーん頼もしいわね。近頃

の若い者などとはよく言われるけ
れど…それで先輩もうかうか
しては居られないわね。それから
この特別寄付というのは何なの?

B そうそうこれも感動よ、こ
れはね関東同窓会の宮沢次郎会長
さん(42期)が、特別に一昨年以
来毎年多額のご寄付をして下さ
っているそうよ。江の島会は神奈川
支部でもあるけれど関東同窓会の
傘下にあるし、村松会長さんは関
東同窓会の監事もされている事も
そうでしょうが、同期の友人なの
で余計暖かい友情からわざわざポ
ケットマネーを割いてご寄付され
ているそうなの。会長さんもこの
ご芳志を無駄にしたくないので不
時の支出とか、やがて来る40周年
記念行事の基金の一部に積立てる
んだと目頭をしばたかれながら報
告されていたわ。

A 感激ね。かねがね42期は結
束も固く友情もあついとはお聞き
していたけれど…。

B 後輩として見習うべきよ…
：そうそうあなたに聞かせたいも
う一つの特種があるの…。あの
ね、会の終り際に、先輩たちが、
「会長のあれを見なければ動かな
い」と言い出したの。会長さんが
困り切って、でもまんざらでもな
いような顔でやり出したのよ。

A 何なのよそれは?

B 鴨緑江節なの、それも歌う
だけでなく有り合わせのザブトン
や箆を使って歌いながら筏流しの
所作をするんだけれど…それがね
：それがおかしくて…やがて激
流に翻弄されてぐるりと後向きに
なった途端、裾の乱れはいいんだ
けれど…ハハハハハハハ言えない
わ恥ずかしくて…

A あと一声、ずばりと!

B とにかく見え…ハハハ…も
う駄目、来年よ来年よ、来年いら
っしゃいよ、きつとよ!

文中記載以外の当日の参会者—
桑山寅三(34) 畔柳安雄(35) 平
尾鋼之助(37) 野崎操一(40) 井
出多米夫・岩崎康・岩波信平・村
上慎威(42) 今井志郎・豊島英夫
・西沢純三(43) 園田芳男・月見
里得知郎(53) 庵原悦次(54) 岩
井平一郎・長田栄(57) 内田武男
・奥沢徹(59) 有田克己(60) 福
岡純一郎(62) 仲野道雄(66)

荒谷しづ子・杉山和子・関口登(68)
神谷貞子・松島玲子・林久美雄・
岩田和(69) 吉田修・藤波はるみ
(70) 大岩連(77)
(写真説明)

静中静高江の島会総会

於 恵比寿屋

『こえ』

39 石井 周平

校歴百余年中で私達在学の五年間は比較的恵まれた時だったでしょう。恰も大正デモクラシーの最盛期、軍国化の嵐の前のベルエポックに当たったからです。五年生二学期の始業式を終えて帰宅したらあの大地震でした。それは時代転換のきっかけだったようです。

40 今井 琢磨

体調が思うようでないので迷惑をかけることが多く残念です。早く元気になる度いと思っています。

42 坂野 隆介

幹事の皆様ごころうさま。今年も同窓の諸兄の消息がわかり、ほんとうに有難うございました。会報十五号によれば、会費の集りが悪い由。そこで、同年度会費の二重払にならぬよう、又未納分が本人にもわかるよう未納分の年度をゴム印を何んとか押すことは出来ませんでしょうか。

42 中嶋 敏

本年三月末をもって小生二回目の定年で、大東文化大学を退職しました。

42 堀 夷

最近、石原慎太郎氏の「亡国」

R・ハンクス著(宮崎正弘訳)「ツ

連の海軍戦略」等を読み、母国の前途に憂慮の念止み難いものがあります。懐かしい校歌を憶い、残り少ない余生を救国の何れの途に燃やし尽くすべきか腐心しつつある毎日で。

43 坪 晴行

三年前国立水戸病院院長をリタイヤーして、健康老人として毎日晴耕雨読。老人の福祉や医療の困難な時代を迎え、他人に御迷惑をかけぬ様、精進しています。

44 望月嘉太郎

大志を抱かず只管月窮鳥に終始し、古稀過ぎて三年我がエンジン未だ回転続くを幸に趣味の愛機を肩に年一度は海を越えて写材を追う。中国へは四度、今また内蒙古の草原に旅立とうとしています。既に亡き友を偲び尚健在の四四期同志の健勝を切にお祈りします。

45 千葉 保次

在学中は記憶力が最もよい時代であったためだろう。教えられた金言名句等空(そら)で言えるものが多い。英語でも漢文でも数式でもそうである。旧制中学の時代というのは、今考えてみて記憶力がよかった上に、それをそのまま貯蔵して、いつでも再生できる準備の時代だったらしい。

45 須山 達夫

会の運営が難しくなった由、年会費の外に寄付八千円を合せて送ります。

私の仕事ボロボドールは今年二月二十三日に終了しました。その後国際鳥類保護会議日本支部常任副会長の仕事に専念しておりますので、次の会員名簿作成の時に改めて下さい。

45 大石 清

勤務先『日清蜂密』は『日新蜂蜜』が正当です。次回名簿御訂正願います。古稀を過ぎても平均寿命までは働けそうです。疑病風疑リュウマチというヤツカイン病氣になりましたが、どうやら歩けるようになりました。岳南健児の皆さん頑張ってください。会費送ります。

46 久留 武

数年前東レ在職中山本知事に数回お会いした以外同級の皆さんにご無沙汰のみで誠に申し訳ありません。考えて見ると静中卒業後お会いしたのは競技部の牧浦甫吉江経雄氏のご両氏のみ様な気がします。

46 清水 哲郎

皆さんのご健康を心から祈ります。

目下停年退職、住所で喫茶店を経営しています。

46 鼠入 秀夫

東京都府中で内科開業。現在府中市医師会長、府中市教育委員をして居ります。

47 吉見 四郎

昨年六月で勤務先を退任。週休七日の身分になりました。

47 山村 俊夫

病後回復中。

47 陰山 修次

このたび立派な名簿ご送付いただき有難うございます。役員の皆様のご努力に感謝し厚くお礼申し上げます。

50 勝又 亨吉

元来人づき合いの良くない方でしたが、年とともに面倒となりましたので、58年度より退会いたしました。よろしく。

51 森 弘

特に、ありません。当会の益々の発展を祈ります。

52 樽松 恒右

卒業して四十年余り返って見ると春うららかな入学式の校庭の桜が校舎を包んでいたことをはっきり思い出す。

52 小川善次郎

静中静高関東同窓会の第15号の会報と会員名簿をお送り下さいませ

して有難う御座居ました。名簿には既に99回生まで記載されており22回卒業の先輩が最古参ですから52回も大分古株ということになりました。曾根さんはじめ同期の方の健在を心強く思っています。

54 篠原 範平

いつもお世話様です。元気にやっております。皆さんによろしくお伝え下さい。

55 戸塚 正五

自賠責保険の業務を通じ交通事故の恐しさ悲惨さを痛感しております。事故を起こさぬことは勿論事故に遭わぬよう交通安全には日々も注意するとともに、万一の場合の保障に万全を期することが肝要と存じます。

56 杉浦 信夫

ご通知をいただいておりますのに欠席で申し訳ありません。この四月で退職し別記に移り住みました。今後ともよろしく願います。56期幹事様

56 青木 良文

私達の同期の方でも勤務先の変った方もおり、あの名簿は一部訂正を出すのでなく全面的に再調査をして最も正しいものにする必要があると思います。でないと用をなしません。

57 加藤 健三

まことに平々凡々な毎日ながら健康には恵まれ、元気に勤務しております。

57 田熊 博邦

長い電々公社生活を終り民間企業に飛び込み敵しさを身にしみて感じています。余生を楽しむ暇もなく、すっかり皆様に御無沙汰しており、又世話人の大役も果せず申訳ありませんが、今暫く時間を下さい。御健勝を祈念致します。

58 世古 真臣

昭和20年3月以来一度も静岡をおとづれたことがありません。学校がどうなったのか、静岡の町がどう変ったのか一度ゆっくり訪れたいと思っています。級友にあっても今では顔も分らないと思えます。年と共に懐旧の情一入です。中学の名簿は入手出来ませんか。

60 里見元一郎

最近ばかり外を出歩くこともなく、メニエル氏病の目まいに悩まされ、僅かに上杉重吉君からの連絡が同期の声として伝わって来ます。でも停年まで頑張るつもりです。

60 原 俊

冠省 いつも土・日が私の責任の日ですので、支部会に出席できず、ちょっとがっかりです。そのうちに皆様の顔を見られるのをた

のしみにしています。

63 塚原 晃

毎年総会の招集状をいただき、多忙にとりまぎれて欠席しておりお世話下さる方々に対し誠に申訳なく思っております。又々会社の仕事が変わり仲々余裕が出来そうにありませんが、出来れば来年はうかがいたいと思っておりますのでよろしく。

64 馬場 泰男

郷土の香りを愛国製茶と云う会社名で各デパートで販売しております。この度、早稲田の森のすぐ近く面影橋電停前に新社屋をつくりました。高田馬場も交通の便がよくなりました。近くにお越しの折お立ち寄り下さい。郷土の品と香りでおくろろ下下さい。

66 小林 成敏

会報ありがとうございます。小生六十六回期ですが、中学一年間で二年よりは転校してしまいました。最初の一の印象が今でも強く残っている次第です。本会のみますますのご発展を心より祈っております。

71 石川 宏

いつもお世話様です。会員名簿大変参考になり有難いのですが、割りに間違いが多かったり、古いものだったりにして残念に思うこと

がしばしばです。ご苦勞とは思いますが、どうぞ宜しく。勝手なお願いで恐縮ですが……。

71 山崎 恭弘

夏が来ると、草薙球場に高校野球の応援に行った日のことを昨日のこのように思い出します。今年には決勝で敗れて残念ですが来年を楽しみにして居ります。

73 鈴木 良明

いつもお世話になりました。有難うございます。来年の同窓会には是非出席させていただき度、今から楽しみにしております。今年の高校野球は大変残念でした。来年は必ず、又全国大会出場をはたす様頑張ってください。

73 鈴木 智彦

残暑の候、事務局の方々にもご多忙の事と存じます。年会費納入大変遅くなりました事申し訳ございませんでした。

関東支部一層のご発展をお祈り申し上げます。

73 仲川 信正

会費の振込が遅れ申し訳御座居ません。何時も会報を楽しみに拝読させて頂いて居ります。事務局の皆様には感謝して居ります。今後共宜敷く御願致します。

76 塚本 平二

十年間勤務しております。大手

町丸ノ内界隈より、この八月一日付で埼玉県の久喜市の支店へ転勤となり、初の支店長を命ぜられ右往左往の毎日を過しております。本年も静岡高同窓会関東支部のみますますの発展をお祈りしております。

96 高橋 聡

96期の幹事の高橋です。某信託銀行への就職のメドが立ちました。同期の者にも来年会社人になる者が多い筈ですので、連絡を疎にしない為にも、会報発送の折に何らかの対応をしたいと考えています。

事務局より 名簿維持訂正の正確さについての『こえ』が出ております。皆さん御自身の変更事項を必ず速やかに各期幹事又は事務局にお知らせ下さい。

第十五回ゴルフ大会

日時 五十八年十一月九日

場所 伊豆大仁CC

優勝 小坂 博(67期)

準優勝 岩崎為明(67期)

第三位 西畑隆志(67期)

参加総数 十三名

次回は五十九年五月東名CCで開催の予定ですので、ふるって御参加下さい。

話題のスペース

(明治通りと大久保通りの交差点)

レストラン・モア

小人数から30名様くらいまでクラス会等に最適です

土 屋 晃 康 (67回陸上)

TEL 03-208-2931・204-1251
東京都新宿区大久保2-1-3

建築設計・監理

株式会社 ユニオン設計センター

代表取締役 成 岡 英 彦 (67回)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル
TEL 03-363-8604 (代表)

五七年度会費拠出者

期別

四五 大石清、草野哲、佐野理平

五〇 森芳夫、江川友治、益田竜

一郎、君島康弘、渡辺博、堤崇、満岡猛、時田正康、野沢栄司、山路敬三、池上晴介、山本善通、山本正三、高村潤史、花見久、黒川泰三、芹沢博樹、後藤達朗、西田隆之介、君島敏男、山崎和夫、大石次男、八木貞二、青木邦彦、伊藤久、天野昭、清水照彦、成瀬弘、立花幹夫、富永辰典

六二 六三 大竹孝英、大塩幸男、塩沢敬、中野喜久、男伊東守、石上昭夫、鈴木雄次、鈴木惣吉、田喜光、加藤昭塚原晃

二二 竹村川二

四五 鈴木弥門、田附敏三、堀正治、下川孟、田代正、須山達夫、石上稔、大石清、竹下定吉、千葉保次

五一 永井五一郎、小塩洋太郎、原崎郁平、河瀬士郎、森弘棋田長、谷川清、飯田鉄雄

五五 青木良文、奥野進、佐野豊彦、清水逸郎、小坂椰子朗、原敏彦、山田隆、萩原達雄、杉浦信夫、松田一郎、橋本保二、松田光彦

六二 六三 大竹孝英、大塩幸男、塩沢敬、中野喜久、男伊東守、石上昭夫、鈴木雄次、鈴木惣吉、田喜光、加藤昭塚原晃

二四 木呂子誠一

四六 岩崎与五郎、内山規、大藤道直、久留武、磯塚倫三、篠原清、風入秀夫、河村喜久雄、清水哲郎

五二 呂茂樹、大草知久、相島秀夫、綾部立一、川島喜八郎、曾根信一、広川聡、鈴木三男、樽松恒石、石野浩一、遠藤藤、西田豊馬、小川善次郎

五七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、高田澄酒井博、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、岩井平一郎、米沢正次、小花正昭、鈴木明、福住俊郎、田中祐三、菅稔、原川久雄、相馬巖、岡田久男、牧知巳、鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三一 夏木栄一、塚田英夫

四六 岩崎与五郎、内山規、大藤道直、久留武、磯塚倫三、篠原清、風入秀夫、河村喜久雄、清水哲郎

五二 呂茂樹、大草知久、相島秀夫、綾部立一、川島喜八郎、曾根信一、広川聡、鈴木三男、樽松恒石、石野浩一、遠藤藤、西田豊馬、小川善次郎

五七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、高田澄酒井博、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、岩井平一郎、米沢正次、小花正昭、鈴木明、福住俊郎、田中祐三、菅稔、原川久雄、相馬巖、岡田久男、牧知巳、鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三二 岡本敏興

四六 岩崎与五郎、内山規、大藤道直、久留武、磯塚倫三、篠原清、風入秀夫、河村喜久雄、清水哲郎

五二 呂茂樹、大草知久、相島秀夫、綾部立一、川島喜八郎、曾根信一、広川聡、鈴木三男、樽松恒石、石野浩一、遠藤藤、西田豊馬、小川善次郎

五七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、高田澄酒井博、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、岩井平一郎、米沢正次、小花正昭、鈴木明、福住俊郎、田中祐三、菅稔、原川久雄、相馬巖、岡田久男、牧知巳、鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三三 大村己代治

四六 岩崎与五郎、内山規、大藤道直、久留武、磯塚倫三、篠原清、風入秀夫、河村喜久雄、清水哲郎

五二 呂茂樹、大草知久、相島秀夫、綾部立一、川島喜八郎、曾根信一、広川聡、鈴木三男、樽松恒石、石野浩一、遠藤藤、西田豊馬、小川善次郎

五七 天野喜久雄、池谷秀雄、影島利邦、杉山正友、藤巻重男、月見里礼次郎、高田澄酒井博、坂田秀雄、加藤健三、山中孝二、平谷久、岩井平一郎、米沢正次、小花正昭、鈴木明、福住俊郎、田中祐三、菅稔、原川久雄、相馬巖、岡田久男、牧知巳、鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三五 畔柳安雄、永野清

四七 今関智吉、片山正三、龜山敏男、杉山栄一、杉江敏男、中村豊夫、星野三郎、山上信重、吉田実、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、石川弘光、野口真関口不二夫、吉見四郎、田中達夫、堀勇

五三 奥野孝、小野一夫、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、山菅幸雄、月見里得知郎、志田寿一、谷静夫、野崎昌輔、森下洋、手島正一、島田良彦、加藤俊雄、渥美政男、虎岩秀郎

五八 鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三八 石割正、大村秀雄、若槻義雄、国塩耕一郎

四七 今関智吉、片山正三、龜山敏男、杉山栄一、杉江敏男、中村豊夫、星野三郎、山上信重、吉田実、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、石川弘光、野口真関口不二夫、吉見四郎、田中達夫、堀勇

五三 奥野孝、小野一夫、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、山菅幸雄、月見里得知郎、志田寿一、谷静夫、野崎昌輔、森下洋、手島正一、島田良彦、加藤俊雄、渥美政男、虎岩秀郎

五八 鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

三九 増井四郎、石井周平

四七 今関智吉、片山正三、龜山敏男、杉山栄一、杉江敏男、中村豊夫、星野三郎、山上信重、吉田実、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、石川弘光、野口真関口不二夫、吉見四郎、田中達夫、堀勇

五三 奥野孝、小野一夫、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、山菅幸雄、月見里得知郎、志田寿一、谷静夫、野崎昌輔、森下洋、手島正一、島田良彦、加藤俊雄、渥美政男、虎岩秀郎

五八 鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

四〇 野崎操一、増田完五、和田連二、渡辺英夫、今井琢磨

四七 今関智吉、片山正三、龜山敏男、杉山栄一、杉江敏男、中村豊夫、星野三郎、山上信重、吉田実、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、石川弘光、野口真関口不二夫、吉見四郎、田中達夫、堀勇

五三 奥野孝、小野一夫、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、山菅幸雄、月見里得知郎、志田寿一、谷静夫、野崎昌輔、森下洋、手島正一、島田良彦、加藤俊雄、渥美政男、虎岩秀郎

五八 鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

四一 山田栄一、中村安時、大森茂

四七 今関智吉、片山正三、龜山敏男、杉山栄一、杉江敏男、中村豊夫、星野三郎、山上信重、吉田実、大村三郎、山村俊夫、土井知恵雄、高山貞男、石川弘光、野口真関口不二夫、吉見四郎、田中達夫、堀勇

五三 奥野孝、小野一夫、三枝正裕、園田芳男、徳永悠久、橋本久仁寿、益田貞三、松前新太郎、山菅幸雄、月見里得知郎、志田寿一、谷静夫、野崎昌輔、森下洋、手島正一、島田良彦、加藤俊雄、渥美政男、虎岩秀郎

五八 鈴木栄三、望月恵一、田熊博邦、須山静夫、鈴木勝義、佐野正夫、宮崎佐一郎、藤森立一、世古真臣、原田和彦、加藤久、松田一雄

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

四二 井出多米夫、岩崎康、岩波信平、田中治、宮崎忠輝、村松直、宮澤次郎、坂隆介、井上寿徳、沼津善夫、山田貴一郎、吉田幸一、堀夷、国分友美、村上頑威、鈴木祐次郎、中嶋敏

四八 伊藤重久、加藤博、近藤希賢、鶴来忠雄、原崎進一、福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、興津幸四郎、青木香、飯田辰司、影山浩、近藤市雄、鍋田親一、奥山正

五四 庵原梯次、細井庸司、大藤直久、鈴木猛、澤井潤、磯野修、佐野圭司、篠原範平、佐野資郎、平林一郎、相川富士雄、高橋恒三、武井富夫、中田千束、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、鷲巢英策、水上八郎、青木和彦、松井保治、戸塚正五成瀬信男、山本武、吉野悟

五九 青山勇、奥沢徹、狩野地男、瀬端一男、三輪潔、川田昭長、谷川邦三、鈴木義男、菅原操、湯本幸丸、増田真一、勝呂清、下村卓也、鈴木昭雄、上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、山本雅之助、原田竜二、新岡昌輝、大石隆一、齊木学、里見元

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

四三 今井志郎、芹沢正憲、田崎茂夫、三好由一郎、北里良夫、井沢源治、望月孟夫、坪崎行、山村忠雄、清水正照、倉沢栄吉

四八 伊藤重久、加藤博、近藤希賢、鶴来忠雄、原崎進一、福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、興津幸四郎、青木香、飯田辰司、影山浩、近藤市雄、鍋田親一、奥山正

五四 庵原梯次、細井庸司、大藤直久、鈴木猛、澤井潤、磯野修、佐野圭司、篠原範平、佐野資郎、平林一郎、相川富士雄、高橋恒三、武井富夫、中田千束、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、鷲巢英策、水上八郎、青木和彦、松井保治、戸塚正五成瀬信男、山本武、吉野悟

五九 青山勇、奥沢徹、狩野地男、瀬端一男、三輪潔、川田昭長、谷川邦三、鈴木義男、菅原操、湯本幸丸、増田真一、勝呂清、下村卓也、鈴木昭雄、上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、山本雅之助、原田竜二、新岡昌輝、大石隆一、齊木学、里見元

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

四四 白井茂、佐藤文三、高橋真一、増井陸郎、村井東助、野間省一、望月嘉太郎

四八 伊藤重久、加藤博、近藤希賢、鶴来忠雄、原崎進一、福永正美、寺尾睦之助、伏見賢治郎、日比野悦三、黒水高典、岩崎鑑一、太田正元、河村祥、大橋広世、興津幸四郎、青木香、飯田辰司、影山浩、近藤市雄、鍋田親一、奥山正

五四 庵原梯次、細井庸司、大藤直久、鈴木猛、澤井潤、磯野修、佐野圭司、篠原範平、佐野資郎、平林一郎、相川富士雄、高橋恒三、武井富夫、中田千束、中田吉信、長沢栄一、法月重雄、鷲巢英策、水上八郎、青木和彦、松井保治、戸塚正五成瀬信男、山本武、吉野悟

五九 青山勇、奥沢徹、狩野地男、瀬端一男、三輪潔、川田昭長、谷川邦三、鈴木義男、菅原操、湯本幸丸、増田真一、勝呂清、下村卓也、鈴木昭雄、上杉重吉、柴田正臣、高田隆祐、原俊、渡辺清夫、萩原莊平、山崎鏡次、山本雅之助、原田竜二、新岡昌輝、大石隆一、齊木学、里見元

六四 六五 岩本吉雄、名波倉四郎、野沢正憲、山本光夫、渡辺安一、吉井駿亮、増田誠男、益頭尚文、松下一男、馬場泰男、狩野達彦、蛭川博之、神谷武男、永田進一、長谷川直和、望月坦、渡辺素夫、八木綱三、村上喜代二、杉本哲、佐野旭、新井彰、鈴木明郎、増田政雄、柳田亮

智策、原常勝、山梨裕司、
村松武司、大坪信之、久保
泰夫、石川隆亮、浜田裕司
小林成敏

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六七
大石緒而、岡村英二郎、梶
原由三、川上剛二、小坂博
児島英男、島居滋夫、成岡
英彦、福原享一、矢部隆
岩崎為明、土屋博、黒田秀
幸朝比奈正三、田中映吾、
遠藤一彦、湯本恭三、塚本
三千雄

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

六八
岩瀬順郊、神保尚司、鈴木
直方、立花雅一、星野敏郎
吉崎英輔、荒谷じつ子、太
岡功忠、大神安雄、若山光
子、宇田貞子、仁科将、鍋
田邦彦、中村睦、安藤昌、
鈴木俊彦、栗田瑞夫、福地
康二、塚本浩司、太川庄治
藤波真五、白鳥健次、市原
卓、石川晃昭、瀬口寿一郎
秋山和也、杉山和子、秋元
明弘、植田勇夫、内田博夫
北村公一、佐野川好母、萩
原多賀男、望月節、渡辺郁
馬、森下健、増田悦男、海
下順之、曾根義明、石川勝
也、福本準一郎、龜山恭一
三橋定、小島哲彦、今井久橋
大澤弘、額見生、松下司郎
辻照雄、神谷貞子、松島玲

七〇

子、小林泰三、原英子、内
田守孝、狩野昌夫
川端正良、小林孝光、関哲
男、長倉良松、松岡武三郎
宮本達司、藤波はるみ、中
馬敏雄、石山博、宮代省一
白石通子、原田行造、味岡
宏、遠藤藤弥、大野幸男、
佐々木政之、田形隆一、牧
野甫、村上雅一、村松勝治
賀知進

七一

佐藤利治、実石欣哉、松原
徳満、後藤弘枝、小池啓治
安藤竜男、石川宏、清水宏
晃、斎藤哲志、友田典、徳
田武司、山崎恭弘、小関修
身、渡辺雅俊、栗田甲子男
長倉真一、浦田彰、村松綾
啓、松隈道雄、本間啓司、
遠藤幸男、岩崎矩夫、清智
渡里彰、宮崎次郎、山本雅
司、白井力、永野誠和、片
山守彦、小林良行

七二

夏目雅之、梶山勝三、木原
規之、小林富士男、坂下光
夫、武井正和、花田守弘、
深田均、松木茂夫、山口公
子、川端正志、宗野佳郎、
山田勝
石川八洲夫、佐々木勝彦、
後藤孝子、中西英一、古井
大朗、大村博、松下勝朗

七三

石川八洲夫、佐々木勝彦、
後藤孝子、中西英一、古井
大朗、大村博、松下勝朗

七五

望月純蔵
今村勝彦、伊藤征、大石直
行、塚本平二
加藤昭
高山貞和
村上和男
野毛宏
影山博章、本間一宏、米沢
玲子
片岡敏晃、松永美三子、堀
池浩行、井出明宏、小針直
人、斎藤仁、仲本和弘、蒔
田篤代、大石恭子、湯本克
彦、小沢幸夫

七六

永田俊彦、三枝通康、小柳
忠義、大石晃史、山本昌秀
鈴木智彦、岡本修、吉井録
郎、岡淵啓子、塩坂雅司、
君島武男、林さち子、宮崎
慎雄、松永烈(利根川正、
石川博巳、遠山敦子、栗田
弘之助、永井敏夫、仲川信
正、山下勇三、榎原由之、
山下茂、鈴木良明

九六

加藤英樹、岸生也、萩原厚
山本茂夫、伊藤寧伸、杉本
耕一、松浦淳子、米沢みど
り、武田邦仁、小杉充伸、
牛田守彦、高橋聡、平口愛
一郎、高木幸江、佐野勝俊
石田雅彦、岩本義徳、土屋
敦、水谷善之、岩崎保浩、

九九

青島矢一、芦川幸男、天野
嘉久、井上正康、岩田寿治
落合良彦、唐木邦光、小林
昇、小林央、佐野欣久、佐
野真浩、白石好宏、新美広
重、杉浦仁、杉山功一、杉
山高史、杉山靖芳、田中勝
巳、竹中教明、徳田夏雄、

九八

小沢靖弘、前原誠。鈴木智
弘、岩橋知都子、尾上真弓
杉山千晶、清真佐子、仲野
由里子、平尾多加子、福井
恵子、大石直美、松浦朝子
池谷美和子、佐藤義正、加
藤公康、野田和宏、齊藤庸一
漆畑武彦、小泉博嗣、重村
武、鈴木統之、鈴木裕康、
坪井泰蔵、花村真一、松本
有二、室田真男、本村一、
森克祥、谷沢寿彦、相原圭
一郎、秋山竜一郎、飯作敏
久、石上道昭、岩本裕二、
小柳津良行、大榎久和、大
村慎一、折田孝樹、佐野倫
桜井工、下山勇次、鈴木正
人、田中正史、中村東介、
仲野裕文、平畑和男、藤沢
紳哉、牧野訓明、向島亨、
八木稔、山田哲、山本典正
鷲巢知行、井沢純子、小野
尚美、寺本好美、山本卓史
野中正弘、山本雅裕

九八

中村立、仁科博勝、深沢恒
紀、藤田直人、蓬台治徳、
三浦一郎、望月竜史、森俊
晴、山川澄人、高木宏、安
間聡、高塚哲、伊藤由紀子
江崎多佳子、小沢真弓、川
西佐起子、熊崎恵、坂部貴
子、新庄亜由美、鈴木正乃
竹内理夏、中村尚世、仲野
妙子、平尾直子、増田理子
町野麻衣子、松永知子、宮
川慶子、森光代、吉村泉、
花村奈生美、木村亜樹、前
田太加樹、大和和也、望月
雅晃、大掛京子、寺本若木
中村剛

九九

青島矢一、芦川幸男、天野
嘉久、井上正康、岩田寿治
落合良彦、唐木邦光、小林
昇、小林央、佐野欣久、佐
野真浩、白石好宏、新美広
重、杉浦仁、杉山功一、杉
山高史、杉山靖芳、田中勝
巳、竹中教明、徳田夏雄、

総合広告代理店

株式会社 ア ド プ ロ

代表取締役 朝比奈 正 三 (67回)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階

TEL 03-254-2171 (代表)

西田重雄先生を偲んで



先生が本告先生のすすめで「あららぎ」の同人になられ、郷土研究会を引率して県内をあちこち歩いた時、秀歌を披露されたのも首肯できる場所であった。

大正十四年から昭和十八年まで静中で教鞭をとられた西田重雄先生が六月二十四日（総会が開催された日）に老衰による心不全のため亡くなられた。享年八十一歳。昭和十五年入学のわれわれは、ずっと学年主任をされた先生にいちばんお世話になった学年だろうと思う。先輩から「太公望」「いびつ」の綽名を引継ぎ、戦時下とはいえないすらをはずいぶんご迷惑をかけたものである。

たまたま昨年六月、私は先生のお宅に何う機会を得た。とてもお元気で、昔と変わらず歓待していただき、師恩をしみじみとありがたく思ったものである。一年後に幽冥境を異にするとは……。

奥様からお便りをいただいた。「……一月ごろからだんだん痩せてきました、体力を取り戻したいと自分のことは出来るだけ自分でやり、死の前日までお風呂もひとり入り、食事も食卓へ来ていたし、六月二十四日に亡くなりました。私は一日として病人の看護をしたという実感はございませんでした。ボケは全くありませんで、郵送されて来る歌の添削を前日までやって居りま

奈良県に生まれ伊勢の神宮皇学館を卒業された先生は、静中に赴任されたところからの教え子つまり先輩方がいかに優秀なものであったかをわれわれにとつとつと話されたことを思い出す。また自宅でのかるた会で百人一首の良さを分りやすく解説していただいたのが印象深い。

して、翌朝は目を覚まさず一日中眠ったままでその晩に生涯を終りました。……あの世から静岡の時代をきつとなつかしく思い出していることをごいましょう……」

先生が五十五年二月に上梓された歌集「流曳」をひもとくと、次の歌のような先生の人柄のにじみ出たものが並んでいる

会へばうれし別れ来りて淋しからず古里人にむねぬくもりて故郷と思ほゆるまで住み古りし静岡出でて老いの漂泊

年古りし木々の高枝に押されつつ山茶花のびて空に花咲く酒飲めば頬ほのぼのと赤らめて美少年の日の君の貌頭つ

水筒に汲み帰りたる山水に静岡の茶を淹れてたのしむ

草を抜く庭に二筋桃色のもぢずり咲けり孫に残しおく

東京より教へ子の来て老いほけし旧師招きてもてなしくるる

生けるもの亡び尽ししわが星や砂漠々と風に飛ぶさま

中字生金のボタン光らせて城址に立ちし日杳し花もまぼろし

先生のご冥福を心からお祈りします。
(60回上杉重吉)

木曾駒より期日上れば落葉松の若葉けむりて鶯の鳴く

和田颯太郎氏

霧はしる山のなだりに山恋ひを教へし君を憶ひかなしむ

35回生和田颯太郎氏は心筋梗塞のため十月二十七日死去された。葬儀は三十日川崎市多摩区生田の法性寺で行はれ、当会からは村松江の島会長他が参列した。

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原由三 (67回)

東京都中央区八丁堀2-1-7

神鋼ビル

TEL 03-553-8981 (代表)

同窓会コンベなど、ご相談ください。

伊豆大仁カントリークラブ

伊豆大仁開発株式会社

代表取締役 石橋正秋

取締役支配人 安田正弥 (66回)

静岡県田方郡大仁町浮橋字南松坂1198-1

TEL 0558-76-2401 (代表)

昭和 58 年度 事業計画

1. 総 会 年 1 回
2. 顧問会 年 1 ~ 2 回
3. 幹事会 年 5 回位
顧問会と幹事会は合同でやる場合もあります。
4. 会報の発行 年 2 回 (6月・11月発行)
5. 懇親会 ゴルフ大会 (年 2 回)
釣り大会、ハイキング大会 (年 1 回) 等

昭和58年度 静中・静岡関東同窓会予算

(S 58.4.1-S 59.3.31)

I 取 入	
繰越金	576,480円
年会費 2,000円×1,000人	2,000,000円
広告収入	450,000円
計	3,026,480円
II 支 出	
会報発行費	480,000円
名簿発行費	830,000円
消耗品費	80,000円
郵送費	650,000円
印刷費	100,000円
人件費	100,000円
事務用品費	5,000円
精 代	200,000円
会合補助費	250,000円
予備費・繰越金	331,480円
計	3,026,480円

昭和57年度 静中・静岡関東同窓会決算書

(S 57.4.1-S 58.3.31)

I 取 入	
56年度繰越金	745,374円
" 会費 (44名)	87,000円
57年度会費 (812名)	1,549,340円
58年度会費 (4名)	8,000円
広告料	300,000円
寄付金	28,000円
預金利息	6,781円
計	2,724,495円
II 支 出	
会 報	482,000円
名 簿	115,200円
郵 送 費	914,515円
印 刷 費	100,450円
人 件 費 (アルバイト料)	100,000円
消 耗 品 費	94,800円
事務用品費	1,600円
交 際 費	39,100円
雑 費	13,500円
会合補助費	286,850円
計	2,148,015円
III 残 高 (次年度繰越)	
	576,480円

上記監査の結果適正であることを認めます。

昭和 58 年 5 月 19 日

監 事 村 松 直
監 事 村 井 東 助

総会議事の明細

五七年度決算書及び五八年度事業計画同予算次の通りです。

編集後記

会報第十六号をお届けします。

決算報告書でもおわかりのように郵送費の高騰が財政を圧迫し、事業活動まで脅かしているため、折角の会報を目方を落したり折って

形を縮めるなど経費節約に苦心惨憺の現状です。

各期便りは編集部の方針が漸く浸透したのかクラス会だけに囚われず色々な面で各期の様子がよく表わされるようになったことは喜

ばしい。これからもクラス会の集いに加え一層懐旧談や級友の慶弔等有効にこの頁を使って下さい。(写真：月見里・庵原・上杉各委員の編集スナップ。大雄広接室)



建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥 野 孝 (53回)

取締役社長 奥 野 進 (56回)

取締役副社長 吉 川 善 吉 (56回)

本 社 東京都台東区寿 2-5-12 加瀬ビル

TEL 03-842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東 2-8-14

TEL 0542-46-9378

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科
人間ドックねつ かん
熱 函 病 院

院 長 小 坂 博 (67回)

住 所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

片山 守彦 ▲日本国有鉄道技術研究所
永野 誠和 ▲日本 R. B. F ㈱【03-553-4270】

73 回

林 さち子 194 町田市本町田1433-11
三枝 通康 354 埼玉県入間郡三芳町みよし台2
▲帝人㈱【03-506-4230】

榎原 由之 202 保谷市富士町4-12-7
佐々木勝彦 245 横浜市戸塚区汲沢4-17-9
永井 敏夫 318 茨城県高萩市安良川1888
【02932-3-7602】▲日本加工製紙(株)勝田工場

76 回

今村 勝彦 272-01 浦安市入船40-2 入船北エステート16
-3【0473-51-4041】

塚本 平二 ▲大和銀行

83 回

久野 泰可 206 多摩市鶴牧4-1-1号棟202
久野 淑子 (旧姓遠藤)

85 回

竹内不二夫 164 中野区中央4-6-12-1110
竹内 裕子 (旧姓遠藤)

86 回

大熊 啓夫 184 小金井市本町1-9-5-503【0423-84-1431】
▲慶応義塾大学整形外科【03-353-1211】

87 回

柴田 154 世田谷区上馬5-10-6 横溝コーポ201【03-
421-8488】▲タトル・モリ・エージェンシー
【03-230-4081】

横山 文子 182 調布市東つつじヶ丘3-52-3【03-326-4144】
日〜火 日進【03-341-0188】

藤田 彰 220 横浜市西区宮ヶ谷34-2【045-312-7218】
▲古河電工【03-286-3833】

高橋 宏 146 大田区多摩川2-24-10-708【03-750-1815】
▲東芝電鉄部【03-507-6837〜9】

薬科 名雄 153 目黒区上目黒3-10-3 メイツ扶賛中目黒40
6【03-793-3518】▲メディカル・エンヴァイロ
メント【03-792-2052】

橋村 芳一 244 横浜市戸塚区長尾台町58-3 シャンポール
大船09【045-8-2-3788】▲アルファックス
【03-586-6734】

水上 浩司 221 横浜市神奈川区大口通103日石 A P 511号
【045-433-0281】▲日本石油㈱【03-502-1111】

平岩 正史 150 渋谷区神奈町18-8 松濤ハイム1006号
▲大原事務所【03-270-7926】

胸組 光明 170 豊島区東池袋3-46-12-503号▲大和証券
【03-243-3740】

深沢 哲夫 211 川崎市中原区小杉町2-276 日石小杉アパ
ート号【044-722-3361】▲日石勤務部勤務課
【03-502-1111】

戸塚 修 152 目黒区麩番第2エスプレッソ303号【03-71
0-4737】▲ヴァーゴ・ミュージック【03-403-3
411】

沢井 良輔 152 目黒区中根2-5-6 秀和都立大レジデンス
301号【03-724-2396】▲住友生命財務企画課
【03-344-1221】

横山 隆美 155 世田谷区代田5-21-14 緑ヶ丘アパート36
号▲A I U 本店営業部【03-216-6611】

日比野 升男 176 練馬区豊玉南2-23 グリーンビレッジ豊玉
410【03-994-4471】▲トップモード【03-475-05
13】

芹沢 誠 167 杉並区西荻北2-22-12【03-394-4934】

95 回

安倍 昌安 転居先不明

城倉 隆

菅沼 正樹

平川 彰彦

堀池 浩行 【03-203-9153】

堀川 和裕 転居先不明

渡辺 寧

近藤 好生 166 杉並区阿佐ヶ谷北4-7-21 両角方

近藤 貞雄 転居先不明

蒔田 篤代 165 中野区江古田1-37-7 長谷川荘2 F 1号
【03-954-4879】▲心身障害児総合医療療育
センター【03-974-2146】

大石 恭子 166 杉並区成田東4-23-10 2 F 3号

96 回

後藤 陽一 転居先不明

佐野 勝俊 166 杉並区阿佐ヶ谷北1-24-7 メゾン阿佐ヶ
谷205号

高橋 聡 276 八千代市八千代台北16-12-14

【0474-83-5600】

小林千鶴子 ■早稲田大学 (重複)

島崎 妙子 転居先不明

山本 茂実

97 回

土屋 成志 転居先不明

林 僚

大石 直美 ■津田塾大学

太多良マミ 転居先不明

望月 剛 223 横浜市港北区日吉本町944 山村方

【044-61-6311】■慶応大学

98 回

増本 真明 【03-971-2245】

松浦 元徳 236 横浜市金沢区六浦町4853-2 夕照寮

【045-783-0688】■横浜市立大学

西野 弘明 157 世田谷区北烏山8-1-6 筑波荘6号室

【03-307-1072小山方】■明治大学

向島 亨 185 国分寺市日吉町3-29-15

【0425-76-4769】■一橋大学

望月 爾 146 大田区鶴の木2-26-18 杉山方

【03-758-3638】■慶応大学

99 回

前田太加樹 168 杉並区永福2-1-9 宮沢アパート101

◎高木 宏 182 調布市西つつじヶ丘4-36-9 平和コーポ
10号【0424-87-4510】■東京大学

世良 賢治 153 目黒区駒場3-8-1 東大駒場寮

【03-467-3009呼】■東京大学

大島 英揮 359 所沢市並木3-2 防衛医大学生舎

【0429-95-1221】■防衛医大

尾崎 弘幸 206 多摩市連光寺2430-4 向ノ岡ハイム2-205
号■中央大学

落合 良彦 223 横浜市港北区日吉2-29-12

【044-62-1061】■慶応大学

唐木 邦光 211 川崎市中原区本月508栗林方

【044-411-1027呼】■慶応大学

加藤 茂一 156 世田谷区桜丘3-9-37 青雲寮6号室

【03-427-3742呼】

後藤 真二 214 川崎市多摩区西生田4-11-18

杉山 功一 276 八千代市大和田269-15 風間方

【0474-82-7394】■千葉大学

藤田 直人 235 横浜市磯子区岡村3-10-32

【045-761-0488】■一橋大学

関 まゆみ 154 世田谷区弦巻5-7-1 緑声舎葵寮

細川 邦子 154 世田谷区下馬3-29-12 清風荘7号

【03-410-4103】

(振替用紙通信に名簿の訂正のみの近況報告はこの頁に掲
載するにとどめ、「こえ」の頁は割愛させていただきます
た。)

名簿補遺訂正表 (58. 6. — 58. 10. 変更事項 回期内順序不同)

42 回
加藤 庄吉 死去
高田 嘉一 281 〒のみ訂正
中嶋 敏 勤務先削除
吉田 幸一 ▲東洋大学名誉教授
堀 夷 156 世田谷区船橋4-1-5【03-483-2514】

43 回
坪 晴行 勤務先削除
清水 正昭 【0474-45-6961】自宅電話
芹沢 正憲 166 杉並区成田西2-2-12【03-315-5288, 315-8057】

44 回
加藤 好三 死去
兼岩 正夫 436 掛川市葛川283【05372-4-2280】▲愛知大学
川江 美雄 死去
岡崎 道夫 541 大阪市東区北浜5-22
中山 隆一 192 八王子市長沼町982-63【0426-35-4585】

45 回
大石 清 ▲日新蜂蜜(株)東京営業所
須山 達夫 ▲国際鳥類保護会議日本支部常任副会長

46 回
清水 哲郎 ●自営

48 回
青木 香 勤務先削除
北村 三明 235 横浜市磯子区栗木1-15-6

50 回
勝又 享吉 退会

51 回
磯塚 駿吉 ▲石塚羽毛商店
谷川 清 236 横浜市金沢区岡東1-12-22

52 回
遠藤 廉 242 大和市西鶴間6-9-4
○広川 聡

53 回
木宮 高彦 ●木宮法律事務所【03-470-3561】
香林 竹男 ▲財団法人外航医療事業団【03-561-6921】
望月 昂 ▲市川市大町診療所長【0473-37-3315】

54 回
稲森 修三 削除
塩谷 陽一 削除

55 回
青木 和彦 214 川崎市多摩区南生田6-17-5
武井 富夫 勤務先削除
法月 重雄 川崎市高津区→川崎市宮前区
木村 康宏 ▲川田建設(株)【03-915-5321】
石神 庸一 ▲石川島汎用ボイラサービス(株)
峰田 涉 ▲足立区教育センター
吉川 鑑介 ▲日本化薬(株)
中谷 克郎 削除
松井 保治 転居先不明

56 回
青木 良文 ▲東北建材産業(株)監査役【03-567-8361】
杉浦 信夫 341 埼玉県三郷市早稲田3-2-3 ▲以下削除

57 回
岡田 久男 213 川崎市宮前区有馬 565

原川 久雄 ▲全日本建設技術協会専務理事
【03-585-4546】
平谷 久 ▲(株)東北鉄興社【03-271-2741】
藤巻 重男 ▲大有(株)営業本部【03-640-7201】
牧 知己 ▲横浜乳業(株)【0467-78-6617】

58 回
加藤 久 ▲三井東圧化学(株)常務取締役【03-593-7056】

60 回
上杉 重吉 ▲【03-265-9221】
新聞 昌輝 ▲新井経済研究所理事【03-452-2770】

61 回
◎中尾 昭
久保田昭司 転居先不明
末吉 晴夫

62・63 回
阿部 修治 削除
荒浪 直彦 ▲大成温調工業(株)【03-774-1111】
大竹 孝英 235 横浜市磯子区田中1-5-13
加藤 昭 削除
小林 剛 227 横浜市緑区美しが丘5-7-15
【045-901-6266】
▲ダイヤモンドクレジット(株)【03-464-6611】
▲P. T. KOMATSU INDONESIA
▲(株)毎日案内広告社【03-573-0211】

小宮 島夫 削除
柴田 克朗
曾根陸世司 削除
高田 桂造 ▲大昭和製紙(株)
塚原 晃 215 川崎市麻生区上麻生1785-3
丹羽 幹 (たけし)
花見 忠 106 〒のみ訂正
彦坂 孝治 ▲藤田鋼板リース(株)【03-552-8388】
福岡純一郎 ▲徳山工業高専校長【0834-28-3766】

64・65 回
松下 一男 215 川崎市麻生区上麻生1798-22

66 回
仲野 道雄 日本航空(株)【03-747-3802】
安池 智策 ▲東京都財務局管財部【03-212-4049】

67 回
石川 武治 167 杉並区荻窪4-19-7【03-398-1371】
▲(社)生命保険協会企画部長【03-286-2640】
大森 恵吉 061-21 札幌市南区澄川6条11-488-39
【011-583-1065】
河川 正義 ▲北海道郵政局資材部【011-214-4096】
児島 英男 ▲大同コンクリート(株)【03-265-7343】
杉山 喜三 ▲フジミドレス【03-665-7787】
鈴木 敏行 ▲久保田鉄工(株)【03-245-3744】
高仲 建男 積水化学工業(株)【03-434-9560】
中村 次雄 第一勧業銀行本店【03-596-1111】
長倉 孝三 275 習志野市谷津町3-29-1-204
美濃 一朗 【0474-54-3120】
溝口 淑郎 ▲日本経済開発企業団【03-592-1700】
山川 静夫 143 大田区南馬込3-26-4

68 回
今井 久 319-11 茨城県勝田市東石川1193-9
小島 哲彦 910 福井市二の宮3-1-1 パークサイドコーポ
702号 電話番号削除
瀧口 晃生 244 横浜市戸塚区原宿町1045【045-851-3614】
関口 登 182 調布市西つつじヶ丘1-54-14
吉崎 英輔

71 回

鈴木株式会社

取締役会長 鈴木 与平 (44回)

清水市入船町11-1

TEL (0543) 53-3111 (大代表)

トッパン・ムーア株式会社

取締役社長 宮澤 次郎 (42回)

東京都千代田区神田駿河台1-6

TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1

TEL (833) 2111 (大代表)

株式会社 講談社

取締役名誉会長 野間 省一 (44回)

東京都文京区音羽2-12-21

TEL (945) 1111 (大代表)

株式会社 東電社

取締役社長 岩波 信平 (42回)

東京都中央区日本橋2-1-21

TEL (271) 2701 (大代表)

セリ企業グループ

代表者 芹澤 正憲 (43回)

錦銀座瀬里 (573) 4031~3

錦セリ・エンタープライズ (574) 7295~6

錦タカ・セリ (572) 6881~2

錦ニュー・セリ (571) 4588・6255

錦セリ・プレイング・マシン (462) 38-0571 (代)

川根 銘茶

三保乃園山菅茶店

山菅 章雄 (53回)
(村松 正七)

東京都港区南青山1-20-6

TEL 03-403-5760

本田技研工業株式会社

川島 喜八郎 (52回)

東京都渋谷区神宮前6-27-8

TEL (499) 0111 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井 平一郎 (57回)

本社 静岡市国吉田645

TEL 0542 (62) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル

TEL 03 (272) 4651 (代)

建築コンサルタント・設計施行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大雄

取締役社長 奥野 孝 (53回)

取締役営業部長 奥野 広 (58回)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-834-5331 (代表)